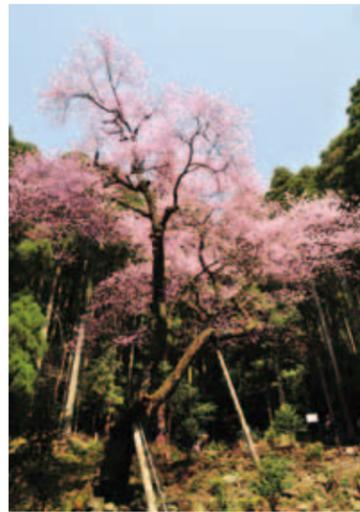


危 虎尾桜今年も2週間近く早咲き
危機を乗り越え咲き誇り

推定樹齢は600年でエドヒガンと呼ばれる希少種の桜「虎尾桜」が昨年に続き早咲きで、3月20日ごろに開花しました。昨年7月の豪雨の影響で桜の延命に影響を及ぼすこと



が心配され、登山道がふさがった状態でしたが、「虎尾桜を心配する世話人会」の呼びかけで11月に復旧されました。そのかいあって、全国各地からたくさんの方が訪れ、日本の名桜100選にも選ばれている見事な姿を仰ぎ見ていました。

←開花後の冷え込みにより、見ごろは長く、約2週間ほど続きました。(3月22日撮影)

↓鯉のぼりは、大きさや配色のバランスを考えながら丁寧に取り付けられました。



春 彦山川河川敷鯉のぼり掲揚
春風に仲良く揺れる鯉100匹

晴天に見守られ、「ひこさんがわ夢の会」鯉のぼり掲揚が4月17日に行われました。春の風物詩となったこの活動も13回目。今年は当初から使用されて老朽化したワイヤが「福智町振興事業等補助金」により、4月上旬に掛け替えられました。穏やかな風の中、同会と上野焼協同組合の約60人が掲げた、色とりどりの鯉のぼりが青空を悠々と泳いでいました。

↓斜面を覆い尽くす鮮やかな白が、日に照らされて輝いています。(4月8日撮影)



真 ナシの花満開「摘花」「受粉」が最盛期に
真っ白な花斜面を染める

桜とほぼ同時期に、町内のナシ園も満開になりました。桜にそっくりなナシの花は、白い花弁が特徴です。山肌を利用した「赤池梨」の農家では、この時期に余分な花を摘む「摘花」や、ナシの交配を助ける「受粉」の作業を行い、夏は「豊水」「幸水」が、秋には「新高」が収穫されます。満開のナシ園を見下ろすと、雪が積もったように真っ白に染まっていました。

↓担任の握手をしっかりと握り返し、真っすぐなまなざしで応える金田小新1年生。



期 町内8校で入学式
期待を胸にはじめの一步

町内の小学校5校で4月7日に、中学校3校で4月8日に入学式が行われました。本年度は小学校で247人(上野小19・市場小82・金田小81・弁城小10・伊方小55)、中学校で223人(赤池中71・金田中83・方城中69)の新1年生が入学し、新たな学校生活がスタートしました。金田小では、真新しいランドセルを背負って保護者に手を引かれた初々しい児童たちが初登校。式典では緊張した面持ちでしたが、教室ではリラックスして、新しい友だちや先生とすぐにうち解けた様子でした。

一 交通安全県民運動で朝の街頭指導
日の始まりに交通安全呼びかけて

交通安全の旗を手にした誘導員とさわやかにあいさつを交わす小中学生。春の交通安全県民運動期間(4月6日~15日)の4月9日に、新学期を迎えた町内各地で交通安全街頭啓発が行われました。行政職員・教職員や福智町交通安全推進協議会委員などおよそ60人が、通行車両の多い横断歩道などで登校児童・生徒に声をかけながら誘導しました。



↑生徒たちに気さくに声をかける浦田弘二町長◎と交通安全推進協議会委員。

身 子どもの水辺協議会が河川敷歩道の距離標作成
身近に感じる河川整備

「子どもの水辺協議会」に参加している赤池中の生徒が、赤池地区の彦山川河川敷の歩道に設置される距離標を3月12日に作成しました。参加した9人は3班に分かれて1kmと1.5kmと2km地点の3枚を作成。建設業者から提供されたコンクリート版にみんなで考えた絵柄を描き、上野焼窯元から譲り受けた陶片を砕きながら、丁寧に埋め込んでいきました。



↑和やかな雰囲気で行われた作業の様子。距離標は乾燥後に設置されました。

↓朝から降っていた雨もやみ、福智町商工会館玄関前で行われたテープカット。



地 福智町商工会開所式
地域一体新たなスタート

福智町商工会と方城町商工会が一つになった新生福智町商工会のスタートです。福智町商工会開所式が4月1日に同会館(赤池)で開かれ、役員や来賓など40人が出席しました。テープカットの後、並川勝美会長が、「合併で組織基盤を強化し、内外から期待される商工会を目指していきたい」とあいさつ。会長等役員は、今月の通常総会で決定する予定です。